

KIRIFT

守りながら、美しく保管する。



厳正な審査を経て

富山県内外の有識者で構成する「富山県推奨とやまブランド」育成・認定委員会が、「高い品質と信頼性・安全性」、「オリジナリティ」、「富山らしさ」、「市場性」、「将来性」の5つの基準で品目を評価し、厳正な審査を経て、「富山県推奨とやまブランド」の認定品を決定しています。

富山県の極上の産品

「富山県推奨とやまブランド」は、魅力ある富山県産品の中でも、とくに自信を持って誇れる極上の産品です。豊かな自然と歴史、そこで培われた人々の知恵や文化を「とやまブランド」の魅力と結びつけ、「富山県」の地域イメージとして国内外に発信しています。

富山県推奨とやまブランド
「KIRIFT」認定事業者

美術木箱うらた
高岡市下麻生4521-3
TEL.0766-36-2253
<https://kirift.shop-pro.jp>



人と風土に、ストーリーがある
とやまブランド物語 VOL.26

富山県知事政策局 政策推進室 ブランディング推進課
TEL.076-444-3574

🔍 とやまブランド



 富山県

大切なものを守る

自然の金庫

【日本の気候に適した】
【万能な保存箱】

手を離すと、蓋はすっと静かに閉じていく。精緻な手仕事で作られた美しい桐箱は、高い気密性と調湿作用によって、中に収めたものを大切に守り続ける。

国土の約70%が森林という日本では、木は古くから生活に欠かせない素材として、建築材や家具はもちろん、箱としても使われてきた。なかでも桐箱は、茶道具や美術品といった貴重な品を収める木箱として重宝され、江戸時代には桐箆筒や家庭用金庫として庶民の暮らしにも広く

利用されてきた。

貴重品を守る箱として桐が選ばれるのは、柔らかな木肌や木目の美しさからだけではなく、素材が持つ調湿・抗菌・防虫・防霉・耐久性・軽量という多くの機能が、多湿な日本の気候に適しているからだ。空気中の水分を吸収・放出して湿度を保つ調湿作用や、箱状にすると燃えにくくなる性質は、ものを劣化や焼失から守ってくれる。まさに桐箱は「自然の金庫」だ。

【手間を惜しまず
質を高める】

日本で主に使われている桐

には「日本桐」、「中国桐」、「北米桐」があり、産地によって個性がある。

最も流通量の多い中国桐は、大量生産のためコストが安価。北米産は硬く艶があり、木目が美しいことから国宝などの美術工芸品を納める高級材として使われている。

日本桐は3つの中で最も調湿作用に優れ、日本のような多湿な気候と非常に相性が良い。ただ、製材加工された外国産と違い、数年かけてアーク抜きや自然乾燥を行う必要があるため、大変手間がかかる。そのうえ、適切な状態を見極めないと割れや変形、変色の原因となるため、職人の目利きが重要だ。しかし、この技術を持つ職人は国内でもわずかしかおらず、そのひとりが「美術木箱うらた」の2代目浦田健志さんである。

伝統工芸の町、高岡市にあ

成長が早くわずか15年で木材として使える桐は、持続可能な資源。

上質な桐に仕上げるために庄川のキレイな水でアークを抜き、しっかり自然乾燥する。



美しい美術品は、
美しい桐箱に。

高岡市金屋町に工房とギャラリーを構える金師 三代 畠春斎氏の「八角鉄瓶」に合わせて作られた美術木箱うらたの桐箱。

新しい視点の、ものづくり



大きな歯がついた「円盤」にかけて、手なりの良い緩やかな曲面を削り出す。洗練された高い加工技術が求められる工程。

る美術木箱うらたは、全国でも数少ない桐箱専門の木箱屋。健志さんの父・実さんの実家は代々桐箱屋を営んでおり、京都での修行を経て独立。高岡市で生み出される工芸品を始め、全国のさまざまな作家や人間国宝の美術品まで、用途に合わせた桐箱をオーダーメイドで製作してきました。

そんな中、2020年に希少な日本桐を扱える強みをベースに、現代の暮らしに合うオリジナルブランド「KIRI-FIT」を立ち上げた。

美術木箱の技術を生活道具に

開発のきっかけはコロナ禍に

せる箱として最もしっくりきたのが「米びつ」だった。

既存品はあったが、どれも仕上げに薬剤を使用している外国産の桐材ばかり。デザインも古めかしく、買いたいと思うものがなかった。

それなら、自分たちが買いたいと思える、安心安全でデザイン性も高い米びつを作ろう、とプロジェクトが始まった。製作にあたり、高岡のものづくり企業の先輩からたくさんもらったアドバイスをヒントに「日本桐を使うと価格は高くなりますが、丁寧な暮らしをしたいと思っている人が一生ものの米びつとして使える商品を目指しました」と

亜希穂さん。



一年を通して湿度を約50%に保ち、カビや虫からお米を守る「ライスストッカー」。軽量なため持ち運びしやすいのも特徴。

使う人の目線でデザインする

女性の小さな手でも使いやすく、そして和のイメージを一新する意匠性。その二つを両立させるため、プロダクトデザインはデザイナーに協力してもらい、幾度となく対話を重ねた。そして出来上がった第一号が、ライスストッカーだ。

「食の美味しいは、美しい保存から生まれる」をコンセプトにしたシンプルなデザインは、主張しすぎず、モダンな存在感で住まいのインテリアに溶け込む。

美術木箱うらた 浦田亜希穂さん。



どの向きでもびったり蓋が閉まるよう緻密な調整を繰り返していく。高い密閉性は美術木箱うらたの技術力の高さを証明する。

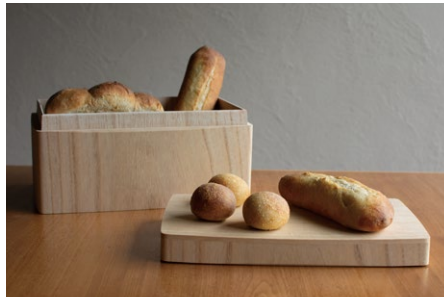




「アパレルストッカー」は、大切なものを美しく保管できる「現代版桐箱」。桐箱に使われる真田紐に着想を得た、ストラップが目目を惹く。



使い続けることで、手に馴染み経年変化が楽しめるのも木の良さ。



1枚板から削り出すため、木目がきれいにつながっているのも特徴。

【関連施設】



ロングライフデザインをコンセプトに、富山らしいプロダクトの発掘や地域らしさを発信するコミュニティショップ。富山県で生まれた伝統工芸や生活用品などを販売するほか、ギャラリー展示やワークショップも開催。

D&DEPARTMENT TOYAMA
富山市新総曲輪4-18 富山県民会館1F
富山駅より徒歩10分
076-471-7791
10:00~19:00(ショップ)
水曜、県民会館休館日、年末年始(他不定休あり)
<https://www.d-department.com/ext/shop/toyama.html>

ウッドデザイン賞など、各界から高い評価を得ている。「とやまブランド」に認定された際、『工芸品の既製のイメージを脱却した、新しい視点でのものづくりが良い』と褒められたことが嬉しかった」と亜希穂さんは笑う。

現在は「コーヒーストッカー」「アパレルストッカー」など5シリーズを展開し、2025年6月に新しく「アパレルストッカー」を発売。近年は、海外からのオーダーやインバウンド需要も高まりを見せており、日本ならではの桐箱が世界へ広がっている。

桐箱や桐箱を知らない若い世代にこそ、手に取ってもらい長く使い続けてほしい、という思いが込められている。桐箱が世界へ広がっている。桐箱が世界へ広がっている。桐箱が世界へ広がっている。

現代の暮らしの中で。

一生ものを

KIRIFITには、美術木箱製造で培われた緻密で正確に作り上げる技術が遺憾なく発揮されている。最大の長は高い密閉性。驚くべきは、どの方向からでも蓋がぴったり閉まることである。高い気密性と調湿作用によって食品をカビや虫から守ってくれることはもちろん、方向を気にせず開け閉めができるストレスフリーな設計は、使い手にとっては非常に嬉しい機能だ。

接着剤や仕上げ材には蜜蝋などの安全な素材を使っているため、自然のままの木目の表情や手触りも心地よい。

また、手に馴染む側面の緩やかなカーブや蓋を開けやすいよう入れた切り込みは、意

匠性を高めているポイントだ。切り込みが曲線状になったのは偶然の産物で、真っ直ぐ切り込みを入れるとカーブ形状によって自然とこの形になるという。手の感覚だけで寸分の狂いもなく削り出すフォルムには、細部まで職人の手仕事の美しさが宿っている。ただ板を組み合わせるだけでなく、一つひとつ巧緻に仕上げている作業に職人の誇りと使い手への配慮が感じられる。

箱も中身も一生もの

伝統的な桐箱をリデザインしたKIRIFITは、富山プロダクツや林野庁が主催する

定期的メンテナンスを行うことで、木目にも深み生まれより愛着あるものに育ち、壊れたら捨てるものではなく、半永久的に使い続けることができる。



message

使い手に優しい、感動の職人技。

しんどう ひとみ D&DEPARTMENT TOYAMA
進藤 仁美さん ショップ店長



機密性が求められる容器は、蓋と身の位置を決めた方がつくりやすいのですが、この木箱は、使い手のことを考えて、どの向きでもピタッと蓋が閉まるようにできています。これができるのは、1つ1つ手作業で確認しながら削りをかけているため。使い手は、何も気にせずに蓋の開け閉めができるので、きっとこの凄さに気づかないはず。そんなふうにな人の暮らしに自然と溶け込む作り手の配慮と技に感動するアイテムです。